

平成 31 年度厚生労働省科学研究費補助金障害者政策総合研究事業
「障害者の自立支援機器の活用、および、普及促進に関する現状調査」

この度、平成 31 年度厚生労働省科学研究補助金障害者政策総合研究事業「障がい者の自立支援機器の活用及び普及促進に求められる人材育成のための機器選択・活用等に関する調査研究」(研究代表者：上野友之(筑波大学医学医療系リハビリテーション科講師)の一部として、福祉支援機器を利用されている当事者、ならびに、機器選定者の方を対象に、「障害者の自立支援機器の活用、および、普及促進に関する現状調査」を実施することになりました。

近年、障害のある人が自らの人生を地域で豊かに暮らすために「人」の支援だけでなく、「生活生活技術および機器」を積極的かつ効果的に活用することが求められている。また、機械やロボット工学、通信技術、情報処理技術などの発展、脳科学の進歩などにより、多様な支援機器が登場してきています。一方で、支援機器を必要としている誰もが、その情報を得て、適切に使用できるための助言、選定、適合、調整などの体制は不十分と言わざるを得ない状況にあり、効果的かつ効果的な普及に至っていないといえます。

そこで本調査においては、支援機器の普及に関し、実際の利用状況、事前の情報取得、事後のフィードバック体制について調査し、今後、支援機器の普及への障壁を取り除くべく、課題を洗い出すことを目的としています。

今回の調査は無記名でお願いしています。ご回答いただきました内容は、下記研究担当者のもとで厳重に管理され、匿名性を確保して集団として統計解析をいたしますので、みなさんの個々の情報が他に知れることも、何らかの不利益が生じることも一切ありません。(●筑波大学医学医療系倫理審査委員会承認済●)

勝手ながら、締め切りを●月●日とさせていただきます。ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

ご不明な点等がございましたら、下記の連絡先までおしらせください。

2019 年●月
敬具

連絡先：筑波大学医学医療系リハビリテーション科 上野友之
〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1
TEL：029-853-3795
FAX：029-853-7047
E-Mail：uenot@md.tsukuba.ac.jp

平成 31 年度厚生労働省科学研究費補助金障害者政策総合研究事業
「障害者の自立支援機器の活用、および、普及促進に関する現状調査」

質問 1. あなたが最近 1 年間に福祉支援機器の選定に関わった機器はどれですか

- 歩行を補助する機器 (杖、歩行器など)
- 体幹・下肢の機能を補助し、歩行等に必要な支援機器 (義足、下肢装具など)
- 移動を補助する機器 (車いすなど)
- 座位姿勢を保持する機能を有する支援機器 (座位保持装置など)
- 移動・移乗する際に解除負担を軽減するための機器 (リフト、昇降機など)
- 上肢機能を補う機器 (義手、上肢装具など)
- 上肢機能を補助する支援機器 (スプリングバランサーなど)
- 手指機能を補助する自助具
- 情報通信支援機器 (PC 周辺機器、スイッチ、入力装置、意思伝達装置など)
- そのほか

質問 2. 支援機器を選定するきっかけとなったことはなんですか

- 当事者本人から依頼を受けた
- みずから機器の導入を提案した
- リハビリ療法士より依頼を受けた
- 医師から依頼を受けた
- 福祉機器業者から依頼を受けた
- そのほか

質問 3. 機器の選定にあたり、必要な情報、サービスと考えることはなんですか

- ほかの利用者の使用状況、環境
- 複数機器機種の情報比較
- 病院・施設・展示会でのデモ
- 生活環境でのデモ使用
- 身体状況などの個別の条件での使用状況
- 生活環境などの個別の条件での使用状況
- 医学的な効果と病気の予後に関する情報
- 耐用期間と更新時期の案内
- そのほか

質問 4. 機器の納品・使用までにおける障壁とを感じるものはなんですか

- 適切な製品情報が得られにくい
- 当事者の身体状況に合っているものなのか確認しづらい
- 当事者の生活環境に合っているものなのか確認しづらい
- 機器の選定のアドバイスを受ける窓口がわからない
- 医療者の福祉機器に関する知識不足
- 福祉機器業者の機器に関する知識不足
- 制度の利用方法、申請方法がわからない、煩雑である
- 機器の選択から納品まで時間がかかる
- 診断書を作成する医療機関につながる事が難しい
- 自己負担額が高額となること
- そのほか

質問 5. 機器の選定にあたり、どのような情報が重要とかがええますか

- すでに同型の機種を導入した時のみずからの経験
- インターネットより、機器メーカーなどのホームページ
- インターネットより、利用者のブログ、口コミなど
- 福祉機器の展示会への参加
- 福祉機器業者からの情報提供
- リハビリ療法士からの情報提供
- 医師からの情報提供
- そのほか

質問 6. 選定した機器の使用感について、伺います

1) 使用頻度について

- 想定をはるかに超えて使ってもらえていることが多い
- 想定以上に使ってもらえていることが多い
- 想定通りに使ってもらえている
- 想定よりもあまり使ってもらえていないことが多い
- 想定よりもかなり使ってもらえていないことが多い
- まったく使ってもらえなかった

2) 使用場面について

- 想定をはるかに超えた場面で使ってもらえていることが多い
- 想定以上の場面で使ってもらえていることが多い

- 想定通りの場面で使ってもらえている
 - 想定での場面ではあまり使ってもらえていないことが多い
 - 想定での場面ではかなり使ってもらえていないことが多い
 - まったく使ってもらえなかった
- 3) 使用頻度・場面が想定よりも少なかった方へ：それはどうしてですか
- 想定した機能と異なっていたから
 - 生活環境に適合していなかったから
 - 適切な機器の設定、調整ができなかったから
 - 使用手順が煩雑であったから
 - 機器選定の時と身体状況が変化したから
 - わからない
 - そのほか
- 4) 使用頻度・場面が想定以上となった方へ：それはどうしてですか
- 想定していた以上に高機能であったから
 - 生活環境に適合していたから
 - 機器の設定、調整がうまくできたから
 - 機器選定の時よりも身体状況が改善したから
 - 利用者なりのカスタマイズを施すことができたから
 - わからない
 - そのほか

質問 7. 機器の納品後に必要な情報、サービスとしてなにが必要だと思いますか

- ほかの利用者の使用状況、環境
- 生活環境での設定、調整の再検討
- 身体状況の変化と機器の再設定、再調整
- 機器の定期的なメンテナンス、調整
- 機器の更新状況、新機種の情報
- 耐用期間と更新時期の案内
- そのほか

質問 8. 上記の情報、サービスについて、現状は十分に提供されていると思いますか

- 十分に提供されている
- 十分とはいえないが、提供されている
- 提供されているとはいえない

ほとんど提供されていない

質問 8. 納品後に機器について問題があった場合に、だれの情報を重要視しますか

- ほかの利用者
- リハビリ療法士
- 担当医師
- 福祉機器業者
- そのほか

質問 9. あなたの職種はなんですか

- 医師
- 理学療法士
- 作業療法士
- 義肢装具士
- 福祉機器・装具業者
- そのほか

質問 10. あなたの経験年数を教えてください。

- 1 年未満
- 1 年~2 年
- 3 年~5 年
- 6 年~10 年
- 10 年~20 年
- 20 年以上

質問 10. あなた(機器利用者)の障害を生じてからの期間を教えてください。

- 1 年以内
- 1~2 年
- 3~5 年
- 6~10 年
- 11 年以上

質問 11. あなたの勤務されている地域の特性をお答えください。

- 都市部
- 郡部

質問 12. 福祉支援機器の普及、活用について、ご意見・ご質問等、ご自由にご記載ください。